

夏

## 大川に揺れる3万個の「いのり星」 平成の星愛信仰をロマンチックに演出

### 平成OSAKA天の川伝説2013

7月7日／大川・八軒家浜(天満橋)

主催：平成 OSAKA 天の川伝説推進委員会  
(平成 OSAKA 天の川伝説実行委員会、  
関西・大阪 21 世紀協会)

七夕の夜、人々の願いごとを託した光の球「いのり星<sup>®</sup>」を大川に一斉に放流し、天の川を地上で再現する市民参加イベント「平成OSAKA天の川伝説」が、今年も大川・八軒家浜で開催された。5回目を迎える今年は、約3万個の「いのり星」を放流。天満橋や八軒家浜棧橋付近で、約6万5千人が幻想的な光景に見入った。

このイベントが当地で開催されるのは、天満の地名が「天(星)満つる地」に由来することからきている。現在の大阪城あたりに難波宮があった時代、当地は日本の平安を願って星に祈りを捧げる地とされた。難波津の護り神である大阪天満宮の天神祭も古くは七夕の日に行われ、船渡御が行われる大川は「天満川」と呼ばれていた。平安京に遷都された後も、新しく即位された天皇は、難波津で行われる「八十島祭(やそしままつり)」に使者を遣わし、御衣に難波津の風を取り込むことで大海原の生命力を身につけたといわれている。このとき祀られた「生島(いくしま)神・足島(たるしま)神」によって、新天皇は国土統治の資格を得た。この祭祀は鎌倉時代に途絶えたが、「生島神・足島神」は、現在も生國魂神社(天王寺区)に祀られている。

こうした由緒を重んじて、今回の「平成OSAKA天の川伝説」では、大阪天満宮の岸本政夫禰宜と生國魂神社の中村文隆禰宜による神事で幕を開けた。御巫が白衣に川面の風を取り込む中、行事のつぎがない進行を祈り、大

阪天満宮の井戸から汲み上げた天満水で大川を清めた。続いて、天の川に鵲(カササギ)が翼を連ねて橋を架け、牽牛と織姫を会わせたと中国の七夕伝説に因んで、大川を天の川に見立てて八軒家浜棧橋で船上結婚式も行われ、鵲を模した風船が放たれた。そうして陽が西に傾きはじめて7時過ぎ、篠笛奏者の井上真実さんの素朴で美しい演奏が響くなか、大川に「いのり星」が次々放流された。

「平成OSAKA天の川伝説」は、大阪城を中心に音楽や伝統芸能などさまざまな行事が集約的に開催される「大阪城サマーフェスティバル(7月4日～9月15日)」のキックオフイベントとして位置づけられ、大阪の夏の風物詩となっている。今年も、「セタクルーズ(大阪水上バス、ルポンドシエル主催)」や、七夕ならではの婚活イベント「天満橋★コン」なども同時に開催。八軒家浜には多くのカップルが詰めかけ、大川に揺れる「いのり星」がロマンチックなムードを演出していた。



御巫が白衣に川面の風を取り込む



大阪天満宮の井戸水「天満水」で大川を清める



井上真実さん(作曲家・篠笛奏者)による篠笛演奏

大川に浮かぶ「いのり星<sup>®</sup>」(八軒家浜付近)





## 文楽若手会がグランプリ 創設50年を迎えた大阪文化祭賞

平成25年度 大阪文化祭賞贈呈式

9月1日／阪急百貨店うめだ本店「祝祭広場」

主催：大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会



賞贈呈式を見る人々(祝祭広場)

5～6月の2か月にわたり開催された「大阪文化祭」。創設50年目を迎えた今年は、大阪府内各所で70件の参加公演が行われ、その中から19名の専門家の審査を経て大阪文化祭賞各賞が決定した。9月1日、阪急百貨店うめだ本店「祝祭広場」にて、賞贈呈式が公開された。

平成25年度の大阪文化祭賞グランプリは、第13回文楽若手会「絵本太功記(6月22～23日・国立文楽劇場)」の出演者一同に贈られた。主催者の関西・大阪21世紀協会の堀井良設理事長は、「グランプリを若手に贈ることについて議論はあったが、若手の成長を高く評価し激励することで審査員の意見が一致した」と語り、記念楯と関西・大阪21世紀協会より副賞賞金50万円を贈呈。文楽若手会を代表して挨拶に立った豊竹咲甫大夫氏(義太夫)は、「昨年は文楽界に対して多くの叱咤激励を頂戴し、一同目の色を変えているいろんなことにチャレンジした。今後も、私たちが文楽界の将来を背負って立つ思いで頑張っていきたい」と緊張気味に喜びを語った。

大阪文化祭賞は、大阪の文化・芸術分野で際立った活躍をし、大阪文化祭において優れた公演を行った人や団体を顕彰する制度。昭和38年(1963年)に大阪府と大阪市が共同で創設し、毎年、「伝統芸能・邦舞・邦楽」「現代演劇・大衆芸能」「洋舞・洋楽」の3部門で賞選定が行われている。過去50年の受賞者には、五十嵐喜芳氏(オペラ)、茂山千作氏(狂言)、渡辺貞夫氏(ジャズ演奏)、ミヤコ蝶々氏(演劇)など、日本を代表するアーティストが名を連ねている。平成13年(2001年)からは大阪21世紀協会(現 関西・大阪21世紀協会)が事務局となり、府・市との3者で主催している。

協会は、大阪文化祭を芸術・文化分野における人材発掘や育成、交流事業として重視しており、受賞者の記念公演を開催するなどアピールの機会を増やすことで、大阪文化祭への関心や重みを高めようと努めている。これまで、

協会主催の「関西・大阪文化力会議(平成22、23年)」での記念公演や、一般社団法人クラブ関西の協力を得て、協会賛助会員などを対象にした「アート・アSEMBリー」の開催など、アーティストの支援を続けている。今回は、昨年のリニューアルオープンで注目を集める阪急百貨店うめだ本店「祝祭広場」を賞贈呈会場にし、2008年にグランプリを受賞した地主薫バレエ団による50周年特別記念公演も行うなど、同賞や受賞者を広く市民にアピールした。

他の受賞者は以下の通り。大阪文化祭賞：京山小圓嬢氏(一心寺門前浪曲寄席における「壺坂霊験記」の成果)、大阪交響楽団(定期演奏会における「ハンス・ロット作品」の演奏の成果)、同奨励賞：小林鈴純氏・谷 保範氏(新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会における尺八「アキ」の成果)、林家染弥氏(「染弥二十年目vol.2～師匠の十八番～」の成果)、入谷幸子氏(ピアノ・リサイタルの成果)、清原邦仁氏(関西歌劇団第95回定期公演「仮面舞踏会」リッカルド役の成果)。



文楽若手会による受賞者記念公演



地主薫バレエ団による50周年特別記念公演